

日本共産党 千田美津子県議 県政報告 NO. 15

ジェンダー平等社会の実現、ひとり親家庭への新たな給付金の支給を!

2月17日から3月25日まで2月定例県議会が開催され、千田美津子県議は令和3年度の予算総括質疑や部門別審議において、コロナ対応と医師・看護師確保問題など、県民のいのちとくらしを守る県政課題について取り上げました。



ジェンダー平等社会の実現

自分自身が感染する危険がある中で、日々奮闘している
医療関係者に感謝を申し上げたい!
(達増知事)

千田県議は、国連ウィメン(注1)が「コロナ危機の経済的影響が弱い立場にある女性に重くのしかかっている」と指摘している事を紹介し、県は支援を必要とする方々をどう把握し、どう支援していくかと質問。

これに対し、達増知事は、「県はこれまで生活福祉資金の貸付、ひとり親世帯への臨時特別給付金の支給など生活の下支えに取り組んで来たが、支援制度の利用につながらず潜在化している方々について、迅速な支援の開始につなげるため、生活困窮者自立支援法に基づき支援会議の取り組みを進め、支援の充実に努めたい」と述べました。

(注1)国連ウィメン「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」

ひとり親家庭へ新たな給付金の支給を

千田議員は、コロナ禍で非正規労働者の雇用環境が悪化しており子どもの貧困も深刻化している中で、政府は昨年末にひとり親家庭に臨時給付を行ったが、一世帯当たり5万円、子どもがひとり増えるごとに3万円の支給に止まり、平時でも貧困状態だったところにさらに追い打ちが掛けられ深刻な状況にある。これらへの対応とし

自分自身が感染する危険がある中で、日々奮闘している 医療関係者に感謝を申し上げたい!

(達増知事)

て新たな給付金の支給が必要ではないかと質問。これに対し、達増知事は、「ひとり親家庭への給付金については、昨年12月末現在、10,336世帯に支給し支援したほか、県内18市町村において独自の支援を行っている。県としては、生活への影響を受けているひとり親家庭については、継続的に支援していく必要があると考えており、全国知事会を通じ対策を講じるよう緊急提言を実施した」と述べました。

働くルールの確立、賃金格差の解消について

千田議員は、本県の非正規労働者の7割が女性で、その多くを占めるパートタイム労働者の賃金は正規労働者の6割程度の水準に止まっていると指摘し、現状に対する知事の認識について質問。

達増知事は、「本県においては、令和元年賃金基本統計調査では、女性の所定内給与は男性の78.3%となっている。これは女性労働者に占める非正規雇用者の割合が高い事が一因と考えられるため、岩手労働局等と連携し県内経済団体に対し、正社員への転換や処遇改善の促進を継続的に要請している」と述べました。



子ども食堂をせめて 小学校区単位で設置を

千田議員は、コロナ禍であるからこそ、子ども食堂や学習支

援を県内全市町村へ拡大することが今こそ必要ではないか。さらに子ども食堂等の県の目標が全市町村での開設に止まっており、より身近な小学校区単位で実施できるよう積極的な対応が必要だと指摘。これに対し、菊池副知事は、「県では子どもの居場所の全市町村での実施を掲げており、開設等の経費への補助やコーディネートによる立ち上げ・運営等の支援を行っている。」「県内の子ども食堂は1月末現在20市町村52箇所に拡大しており、まずは全市町村での実施をめざしたい」と述べるとに止まりました。



コロナ現場では

「子どもの試合の応援に来ないよう言われた!」
(緊急アンケートより)

千田議員は、今年1月岩手医労連がコロナ患者に対応されている看護師へ実施した緊急アンケートには、「家族に移さないよう気を遣い、自宅では食事でも離れて食べ、寝室も別にして」「コロナ患者の対応をしている」と言ったら、歯科受診を断られた

「自分が留守の間に洗濯物を燃やされた」「病院でコロナ患者を受け入れていると分かると、子どもの試合の応援に来ないよう言われた」等々、現場の悲痛な声や実態が寄せられている事を紹介。

医療関係者にエールを!



これに対して、達増知事は、適切な医療を提供するため、自分自身が感

JOYサポートと医師確保

JOYサポート実施により他県に先駆け育児短時間勤務の拡大を実現、さらに医師が働きやすい環境に(達増知事)

染する危険がある中で日々奮闘している県内の医療関係者の皆様に感謝を申し上げたい。今回、医療関係者から寄せられた声は想像する以上に大変辛く、悲しい気持ちになるもので、医療関係者の方々が受ける精神的・身体的な苦痛は計り知れないものがある」「この間、医療関係者等の励みになるよう県民からエールを募集し、ホームページやLINE等での公開とテレビCMを放映して来たが、引き続き県民の皆さまから医療関係者等にエールを届けていただきたい。」と述べました。

千田議員は、今年1月に県議会環境福祉委員会が実施した県内女性医師とのWEB会議において、岩手のJOYサポートプロジェクトが県内の医師確保の上で大きな役割を果たしていることが紹介されたが、知事はこのプロジェクトをどう評価しているかと質問。達増知事は、「この施策は女性医師との意見交換を重ねながら、他県に先駆けて育児短時間勤務制度の対象となる子どもの年齢の拡大等を図って来たもので、今後とも医療局には医師が働きやすい環境整備に向けた積極的な取組を期待している」と述べました。

岩手JOYサポートプロジェクト 県立病院のすべての医師がキャリア形成を図りつつ、勤務医として活躍し続けられる環境を目指し、仕事と家庭の両立のための支援制度です。

